

# 経済学部 准教授 小川健

資源管理が重要となってきたこの時代、手法の 1 つとして現在注目を浴びている手法の 1 つが認証である。消費者に資源の持続可能性や環境保護に配慮した製品かどうかを判断できるようにして、消費者の選択によって持続可能な社会を目指す「エシカル消費」が実現できるようにする上では欠かせない在り方の 1 つが認証であり、この認証に関して日本語で本格的に様々な事例をまとめた事実上初めての本がこの本である。

通常、色々な人によって 1 章ずつ書かれた本というのは多様な観点・事例を確認できる反面、往々にして個々の得意な部分だけを取り上げるちぐはぐなものになりがちだが、この本はそうしたことにならないような配慮もなされていて、認証について初めて学ぶ場合にも非常に優れている。この理由には、通常は前書きや第 1 章だけ集まった原稿を基にして書く形式が多い中、この本は全体を貫くための予備知識としての第 2 章がきっちり作られているところに由来する。この本では第 1 章に認証の歴史が、第 2 章に認証の基本的な仕組みの説明がなされていて、第 3 章から個別の事案について書かれているが、初めて読む際には第 1 章より先に第 2 章を読んだ上で第 1 章に戻ると、認証についてのイメージを以て歴史を見ることが出来る。

また、通常はこうした本だと成功例だけ取り上げるのが常であるが、この本は認証の取得を諦めた事例など、より広範に認証について扱っていて、優れているといえる。

**国際資源管理認証：エコラベルがたなぐグローバルとロ  
ーカル / 大元鈴子, 佐藤哲, 内藤大輔編  
東京大学出版会, 2016.3**

本館 K/519/Ko51 神田分館 /519/Ko51



かつての仮想通貨ブームの中で投機を煽る本が多かった中、この本は一線を描き、1つの仮想通貨に焦点を当て、その意義から将来可能性までコンパクトに説明したシリーズの 1 つ。本来、仮想通貨に関する概括的な説明をする際にはどうしても先駆けであるビットコインや、その登場以前・以後で仮想通貨の在り方が大きく変わったイーサリアムについての説明を中心に据えざるを得ない場合が多く、このリップルに関しては派生の 1 つとして簡単に触れるに留まる可能性が高い。

しかし、その後の発展可能性を考えるに、今のこの仕組みのまま社会を変える可能性が高い 1 つがこのリップルの持つネットワークであり、国際送金・国内送金の仕組みを根本から変えるといわれている。

銀行が採仮想通貨リップルの衝撃 Ripple が実現する"価値のインターネット用を減らす時代、その理由は 1 つにはマイナス金利があるが、もう 1 つには金融に対する外部からの技術革新であるフィンテックと言われている。そのフィンテックの中で中核技術と言われているのがこの「分散型台帳技術」(ブロックチェーン関連技術)と言われているが、ビットコインから先に学ぶ場合には往々にして途中で力尽きて読むのを諦めてしまう人が非技術系・非情報系の人には多い。

この本はそうした部分は最低限の説明にとどめ、国際送金等の中で銀行が本格的に注目するリップル・ネットワークまで読み切れるような挿絵等数多くの配慮がなされている。仮想通貨バブルが去った今こそ読む価値がある本と言えよう。

**仮想通貨リップルの衝撃：Ripple が実現する"価値のイン  
ターネット" / 四條寿彦著**

山と溪谷社 (発売), 2018.3

生田分館 J/338/Sh32 神田分館 /338/Sh32

